

## 大波乱のレースを力走、5位でチェッカーを受ける

RACE	2015 AUTOBACS SUPER GT Round4 『FUJI GT300km RACE』
DATE	予選：2015年8月8日 決勝：2015年8月9日
CIRCUIT	富士スピードウェイ（静岡県）
WEATHER	予選：晴れ/ドライ 決勝：晴れ/ドライ
RESULT	予選：7位 決勝：5位

今季シリーズ戦の前半戦最後を飾る一戦は、静岡・富士スピードウェイで迎える「FUJI GT300km RACE」。シーズン2度目の富士戦は前回の500kmとは変わって300kmというスプリント戦でもある。夏真っ只中、文字通り“ホット”なレースで結果を残したいTEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは、予選から好順位を狙って力走。予選7位からスタート、5位でチェッカーを受けて3戦ぶりとなるポイント獲得に成功している。



第2戦富士、第3戦タイの2戦ではレース中に車両トラブルに見舞われ、不本意な戦いを強いられたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。シーズン前半の締めくりに当たる今大会では、なんとしても決勝でチェッカーフラッグを受けなければならない。そんな強い気持ちを持って戦いに挑むこととなった。

富士戦を前にした7月下旬、チームでは宮城・スポーツランドSUGOでのSUPER GT公式テストに参加。走り込みを重ね、チームが一丸となってクルマの進化に努めてきた。納得のいく成果を手にし、サーキット入りしたチームだったが、土曜日の朝の公式練習で1分30秒513のタイムをマーク。12番手のポジションに甘んじた。

## ◎ 予選：

真夏の暑さとの戦いにもなるかと思われた富士戦だが、予選日は意外にも気温が上がらず、つねに薄曇りの空がサーキットを包み込んだ。午後の予選を控え、タイヤ選択が悩みの種となる中、午後3時前にGT500のQ1アタックが始まった。

この時点での気温は27度、路面温度は34度。No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのステアリングを握ったのは、山本尚貴選手。タイミングを見計らいアタックを開始、順調にタイムアップし、刻んだベストタイムは1分29秒183だった。結果、7番手でQ1を終えることになり、今シーズン初のQ2進出を実現させた。

続くQ2は午後3時28分にスタート。伊沢拓也選手にとっては、岡山戦のQ1以来となるアタックだ。気温はさらに下がって26度、路面温度も31度まで下降している。その中で、残り時間7分を切ったところから大半の車両がコースインしてアタック競争が始まった。伊沢選手は1分29秒431のベストタイムをマークし、7番手のポジションを獲得。決勝日は、今シーズン最高位となる位置から戦いを繰り広げることになる。



それぞれの予選を終えた両ドライバーは、Q1を突破してQ2進出を果たした安堵感とともに、さらなるステップアップに向けて士気を高めていた。「朝の走行ではクルマのバランスが取れており、いいフィーリングを感じていたものの、タイムは出ていませんでした。しかしながら、Q1ではいいアタックが出来て、今年初めてQ2へと繋ぐことができたのは良かった。これが復調の兆しになればいいと思う」と山本選手。「このところ2戦連続リタイヤとなっているので、決勝では戦い切って、結果をちゃんと残したい。理想は表彰台に上がる」と力強くコメントを残した。一方、伊沢選手は、岡山戦以来となる自身のアタックを「ちょっとタイムが…。うまく走った感じがしなかった」と悔しがった。しかしながら、「今まで以上のポジションでスタートを切ることができるし、富士は追い上げしやすいレイアウトなので、期待を持って決勝で頑張る」と気持ちを切り替え、決勝への闘志を見せた。

## ◎ 決勝 :

決勝日は、前日とは異なり、強い日差しが照りつける厳しい暑さへと一転。にも関わらず、夏休み真っ只中ということもあり、サーキットには3万6400人もものファンが訪れ、戦いの行方を見守ることになった。

午前9時35分からのフリー走行で、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTがトップタイムをマーク。決勝を想定したコンディションでの走行でクルマのバランス確認やタイヤの摩耗などを確かめ、近づく戦いの準備を時間ある限り進めることになった。タイムをマークしたのは、山本選手。「バランスは悪くないと思う。クリアな状態で走れたし、GT300もガンバって避けて走ったので、その兼ね合いで出たタイムだと思います。久しぶりにトップでセッションを終われましたね」と笑顔を見せつつも、「フリー走行なので、本音としてはこの結果はあまり気にしていません。昨日とコンディションが異なるし、決勝は決してラクではないと思います」と表情を引き締め、決勝での奮闘を誓った。

午後3時、気温31度、路面温度45度の中、300kmの決勝レースがスタート。青空の下、ほぼ無風状態の強い日差しの中でタフな戦いを任されたのは、山本選手。オープニングラップでひとつポジションを上げ、さらに、9周目にNo.24 GT-R、21周目にはNo.39 RC-Fを逆転。その勢いで2~3位争いへと加わる快進撃を見せた。しかしその一方で、タイヤの摩耗も厳しくなっており、チームではピットインのタイミングを考慮。当初の予定よりも前倒しでピットへとクルマを戻す決断を下した。



29周を終えてピットインしたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。コースに向けた伊沢選手はタイヤのコンディションが安定すると、すぐさま攻防戦を開始。3位の座を狙いつつ、後続の猛追をシャットアウトしなければならないという極めてタフな状況の中、高い集中力を維持しながら周回を重ねていった。

丁々発止のバトルの末、24号車の先行を許すことになった一方、前後車両のポジション変動も大きく、終盤に入ってNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは5位のポジションをキープ。最後まで着実な走りを完遂させたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは、開幕戦以来となる完走を達成し、加えて5位入賞のポイントを計上している。

次戦、鈴鹿1000kmを前に手応えある戦いをやり遂げたNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT。真夏の鈴鹿では、今回の結果を受けてウェイトも増える中での厳しい戦いが必至と思われるが、上昇気流の中、力強い走りを見せてくれることだろう。



## ◎高橋国光総監督

開幕戦以来となる完走を果たすことができました。今日のドライバーふたりは本当に頑張ってくれました。一方で今回はライバルチームの躍進もあり、私たちのチームにとっては厳しい戦いになったことも事実です。思うに、レースというものには完成形がありません。つねにチャレンジし続け、目標を追走し、達成直前にまた新しい“何か”が見つかり、またチャレンジを続けるのです。今回のレースはまさにそういうものでした。与えられた現状の中、ドライバーふたりは限りなく出せる力を出して、チャレンジをしてくれました。反省すべき点もありますが、まずは今日の結果を良しとして、鈴鹿に挑みます。



## ◎山本尚貴選手

チームが昨日と今日のデータをうまくすり合わせてくれて、決勝に向けてすごくパフォーマンスのいいクルマに仕上げてくださいました。スタートの混乱をくぐり抜けてポジションアップはできたクルマの調子も良かったので、もう少しピットインのタイミングを伸ばしたかったのですが、タイヤの摩耗も厳しく、早めにピットインして伊沢選手に託しました。タイヤから振動も感じ取れたし、コースも混乱していたし、前のクルマに引っかかって走るよりも早めのピットインが得策だろうという判断になりました。

一方で、ピット作業が僕らよりも短く済ませたチームがいくつかあり、コースに戻ると下位のクルマが前に出られることになりました。表彰台に上がりたかったという気持ちもありますが、開幕戦以来の完走ができたし、チームとしてはミスなく戦えたことが何よりの成果だと思います。次の鈴鹿1000kmではウェイトを積むので厳しい戦いになると思いますが、いい流れがあるうちにいいパフォーマンスができればいいなと思います。

## ◎伊沢拓也選手

途中、敵を抑えるので精一杯でした。正直なところ、まさかあのクルマ（24号車）が勝つとは思っていませんでしたが…。でもまずは、ここ2レースを続けてリタイヤしていたので、今回はとりあえず完走できて良かったです。一方で欲を言えば、表彰台も狙えたかもしれない、という思いもあります。結果的には入賞してポイントを獲れたことが大きいし、良かったと思います。第5戦鈴鹿が目前になるので、タフな戦いにはなりそうですね。目標だった（ハンディウェイトによる）ワンリスダウン（燃料リストラクターを絞る）には届かなかったのが、次の鈴鹿で点数をしっかりと稼ぎ、後半で好成績を狙っていきたくと思います。



第5戦は8月29～30日に三重県・鈴鹿サーキットにて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。